

# KSKP THRESHOLD

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.11

~すれっしょよんど~ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center  
**DARC**



## 回復には仲間が必要

六甲山から吹き降ろす風が非常に厳しい時期になりました。が、春はもう目の前。仲間たちの活動にも変化が起きてきました。週末ボランティアに精を出す仲間。スタッフ研修の道を見つけた仲間。次のステップアップのためにいろいろなことを学ぶ仲間。神戸に引っ越してきて仲間の中での生活をもう一度歩き始めた仲間。そんな仲間たちが新しいことを新しい生き方の中で始めていきます。

今年に入り、依存症セミナーやアディクションフォーラムなど、おかげさまで大盛況の中、これからのビジョンとミッションをさらに明確にしていく動きが始まりました。これも、仲間が成長してくれたおかげ、新しくダルクのスタッフとして頑張ってくれている仲間、そしてこれまで支えてくれた仲間のおかげであります。

ちょっとした畑を借りることができました。これまでボランティアで月に2回農業を行ってきた仲間の方が私より詳しく、畑のイロハを教わりながらスタートします。雑草が生い茂った畑を耕し、今年の夏や秋には実をつけ花を咲かせるのでしょうか。僕たちの回復もそんなところから始まりました。また、新たな取り組みとしてキッチンを始めます。人通りの少なくなった商店街で、どこまで展開できるか挑戦していきます。こだわりキッチンは神戸ダルクのこだわり。

ですが、どの取り組みも資金不足で悩んでいます。しかし献金していただくより、美味しいものを作って喜んで買ってもらおう!! という仲間の一言がわたしたちの胸に響きました。

次号ではお知らせできそうです。皆さんの笑顔と私達の笑顔が見れる日を楽しみにしています。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

## 神戸ダルクとアパリ

アジア太平洋地域アディクション研究所 (APARI)  
リーガルソーシャルワーカー(精神保健福祉士) 志立 玲子

神戸ダルク代表の梅田さんとは、アパリのフィリピンプロジェクトで一緒に来て、親しくさせてもらっています。

当時の梅田さんと言えば、フィリピンマニラの貧困地域に入っていたり、タイやアメリカなどを舞台に国際的にも活動していました。

アパリが JICA に申請していたフィリピンプロジェクトがマニラで行われる予定であったため、その現地スタッフとして梅田さんに白羽の矢が立てられました。そして JICA で打合せが行われる度に東京に呼び寄せ、幡ヶ谷の JICA 事務所まで一緒に出向き、度重なる打合せを行いました。その頃はプロジェクトを実現させるためにお互い必死に動き回っていました。結果的には JICA プロジェクトは採択されないまま今日に至っていますが、思いを一緒にして汗水たらして頑張っていた頃を懐かしく思います。

しかし、そのフィリピンプロジェクトはできなくなりましたが、梅田さんにとってはとても幸せなことが訪れました。時を同じくして、人生のパートナーを見つけ、それだけでなく子どもにも恵まれました。それがなんと双子の男の子を授かったのです。とても嬉しくおめでたいことでした。もし、あの時フィリピンプロジェクトが採択され、現地に派遣されていたら、パートナーや子どもたちともしばらく離れて暮らすことになったでしょう。そういう意味ではプロジェクトが採択されなかったこともラッキーだったと言えなくもありません。

そののち神戸ダルク ヴィレッジの開設も果たしました。ダルク開設と同時に精神保健福祉士の資格取得のために学校に通い、子育てもするなど、想像を超える忙しさであったことでしょうか。持ち前の根性と体力、愛情溢れる人柄も加わり乗り越えてこられたのではないのでしょうか。見ていて誰もが応援したくなるほどの頑張りぶりでした。

当初は神戸という地域の中でやっていくことに不安を感じていたようですが、今では各機関との連携をうまくとりながら活動しているようでホッとしています。

アパリでは、薬物事犯で逮捕された方を回復へと導く司法サポートという活動があります。この連携先として神戸ダルクにもご協力いただいています。具体的には裁判を終えて、受刑している方との手紙のやり取り、身元引受人にもなっていただき、出所した際には入寮を受けてもらいます。実際に今も神戸ダルクの梅田さんを身元引受にしているクライアントがいるのですが、しっかりと対応いただいています。

NPO 法人アパリとしては同じ法人内のダルクだけでなく、全国数カ所のダルクと連携しています。そのうちのひとつが神戸ダルクになります。アパリの司法サポートが約 20 年にわたり実現できているのは、このように協力していただけるダルクの施設長がいるお陰だと思っています。アパリのスタッフだけではこの活動を続けていくことは困難であると痛感しています。この場を借りまして御礼申し上げます。

そんな頑張っている梅田さんは昨年 10 月～12 月頃、体調を崩し入退院を何度か繰り返すようになりました。その様子を Facebook などで見つけて、大変そうだな～、つらそうだな～と思っていました。しかし仲間の応援や励ましのメッセージの多いことにも驚かされます。私も早く良くなるように祈っていました。そしてパートナーの支えや子どもたちの存在も力となり、奇跡の復活を果たします。その間は周りのスタッフや全国の仲間にも助けられたようで、みんなに愛されているのだな～と感じました。きっと仕事のスキルも高いので、何かに取り掛かったら完璧にこなすまで手を休めないのでしょうか。しかし命あつての梅田さんです。体調管理には十分気を配って、食事や運動、休息など自分自身のケアの時間をしっかり取って、そしてたくさん遊んでください。

これからも健康には気を付けながら、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます！！



志立 玲子 しだち れいこ

NPO 法人アパリ 事務局  
次長、精神保健福祉士、  
消費生活コンサルタント

一般企業、明治学院大学  
法学部研究室、法律事務  
所数ヶ所勤務したのち、  
アパリにボランティアで  
関わる。平成 16 年 4 月  
よりアパリ職員となる。

認定 NPO 法人ワンデー  
サポート 監事、NPO 法人  
日本ダルク 監事

## クリスマス会に参加して

事務スタッフ 精神保健福祉士 石井奈美

普段は事務の仕事をしており、プログラムに参加することは滅多にありませんが、お誘いを受けたのでクリスマス会に参加させてもらいました。

午前中にダルクのみんが買い出しに行ったり、飾りつけをしたりしてくれました。テーブルにはチキンやピザ、お菓子などが用意されていて、みんなで乾杯しました。みんな思い思いにチキンやピザを食べながら話したり、冗談を言って笑ったりして楽しかったです。ワイワイ楽しい雰囲気の中で食事をするとなかなか食べ過ぎてしまうと思いました。

食事のあとはプレゼント交換をしました。私はプレゼントを買い忘れてしまったので参加しなくていいかと思っていたのですが、梅田さんが事務所にあったものを見繕って持ってきてくれたので参加することが出来ました。くじ引きで何が当たるかわからないドキドキ感などが味わえて楽しい雰囲気でした。何が当たったと一喜一憂し、見せ合いっこ



している利用者さんたちの姿が印象的でした。ちなみに私はメガネの形のストローが当たり、今使わないと今後使うことないよと言われましたが、恥ずかしすぎて使う気になれませんでした。

プレゼント交換のあとはジェンガをしました。全員参加で倒した人は恥ずかしい話をするという罰ゲーム付きだったのでみんな真剣にジェンガをしました。私も長い間ジェンガなんてすることがなく、罰ゲームがあるのは初めてだったので真剣になっていました。同じ空間で、同じことをして、手が震えるほどドキドキしたり、負けてしまって罰ゲームで恥ずかしい思いをしりしたとしても、そこで、自己開示することによって、よく話してくれた。とより仲間意識が強まる瞬間を感じられたように思いました。

ジェンガのあとはアラーシーというゲームをしました。私は当事者ではありませんので見学することになりました。アラーシーはカードゲームで危機(依存症の問題)

のカードとアイテムのカードがあり自分が引いた危機を持っているアイテムカードでどう乗り越えるかを考えるゲームで、発想力が求められます。一番面白かった人に景品を出すということで一人一人アイデアを駆使していましたが、タケちゃんがこのゲームが得意ということでヘルプカードが出るとみんなタケちゃんにヘルプを求めるところが面白かったです。結局この時もタケちゃんが一番面白かった人に選ばれて景品を獲得しました。もう彼は殿堂入りですね。

助成金を頂いたおかげでこんな風にお腹いっぱい楽しいクリスマス会をすることができました。利用者さんの方々は薬物やお酒などを使わなくても仲間と一緒に楽しいクリスマスを過ごすことができましたと思います。仲間と一緒に楽しいことをしたり、おいしいものを食べて騒いだりした思い出を積み重ねていくことは今後、寂しさや世間の厳しさに打ち勝つ糧になると思います。

最後に一人ずつ感想を言う場面があったのですが、ある利用者さんが今日は楽しかったと感極まって泣いているのを見て、これがこの仕事の醍醐味だと温かい気持ちになりました。

## ダルクの仲間と過ごした2度目のお正月 スタッフ 介護福祉士 梅田容子

今年はダルクが生活訓練事業所としてスタートしてから2度目のお正月でした。去年と同じように、小晦日にお節作りと大体の正月準備を終え、大晦日は仲間みなでお寿司屋や年越しそばを食べて、こたつにもぐってゆっくりと過ごしました。

年が明けて、今度はお雑煮とお節で一家団欒ならぬ仲間団欒です。正月の定番といえばここにお屠蘇が入るのかもしれませんが、ダルクの仲間たちはノンアルコールなのでジュースで乾杯です。BBQ やこういう集まりでは炭酸飲料が欠かせません。結局、年末用意していたジュースだけでは足りず、正月三が日が終わるまでに買い足すほどでした。それでもみんなで作ったお節や鍋をつつきながら、何をすることもなくお家(ここでは夜間寮ですが)でのんびり過ごすお正月は、回復の道を歩む仲間たちにとって、とても意味のあるものになったことと思います。

刑務所から出てきてはじめての正月を迎えることができた仲間、シラフで正月を迎えることができた仲間、一人きりじゃない正月を迎えることができた仲間、2度目のダルクでの正月で新しい仲間をウェルカムすることができた仲間。それぞれの仲間がそれぞれに、色んな思いを抱えて迎えた1年のはじまりでした。みんなで行った初詣でも、そんな感謝の気持ちを神様に伝えられた仲間もいたのではないのでしょうか。

実はこの原稿を書いている今、私自身と家族にとって、受け入れ難く、とても悲しい出来事がありました。今朝、原稿の締切ギリギリで、こんな幸せなりカバリーの記事を書く気持ちにどうしてもなれず、一日をダラダラと過ごしてしまいました。誰か他の仲間が変わってもらおうか。もうできない、と言ってしまおうか。そんなことを考えてネットサーフィンしていると、一つの記事に出会いました。起きた出来事と記事について、詳しいことはここでは割愛させていただきますが、ある方の活動で、最近まで軽視されていたことが、全国的に格段に変わっていった、といった

内容のものでした。それを読んでみると、なぜか「いまの思いのままに記事を書こう」という気持ちになれたのです。こんなどん底のような気分の日、そばで支えてくれたのは同じリカバリーの道先ゆく夫と、無邪気な愛情をくれる子どもたち、まぎれもなくそんな家族の存在でした。

薬物依存からの回復もそうですが、人間というのは、慣れてくるとささいなことには感謝できなくなります。一年、二年、時が経つにつれ、正月に娑婆でシラフで過ごすこと、再び自分を受け入れてくれた家族への感謝の気持ち、そんなものも薄れてしまうかもしれません。昨日まで当たり前だと思っていることが当たり前ではないこと。大切なことはいつもリカバリーの中で起きる出来事から教わります。

年始に立てた私の一年の目標は「一日一日を丁寧に生きる」でした。お正月に仲間と家族と過ごして幸せだなあと思えたこと。そして、そんな幸せを仲間にも感じて欲しいと思って仲間のサポートをしてきたこと。そんな純粋な気持ちと、当たり前のことに感謝できる日々を、これから先も大切にしていきたいと思いました。最後になりましたが、今回も支援者の方々からの心のこもった献品と、NHK 歳末たすけあい助成様のおかげで、心も体もあたたかい年末年始を迎えることができたことを、心より御礼申し上げます。



## 依存症セミナーin 神戸 2019 に参加して 事務スタッフ 精神保健福祉士 下濱進矢

今回 1 月 29 日土曜日に、神戸市総合福祉センターで行われた、依存症セミナーin 神戸に神戸ダルクのスタッフとして参加させていただきました。ダルクの仲間たちと午前中から、今回どれだけの方に来場していただけるだろうと、期待と不安が入り混じりながら会場の設営を行っていましたが、いざ始まってみると本当にたくさんの方々に来場していただきました。今回講師として、垂水病院より麻生先生、神戸市保護観察所より、統括保護観察官、植木さん、神戸ダルクは代表の梅田が、それぞれ「治療」「再犯防止」「回復」について、それぞれの役割分担についてのお話をさせていただきました。ディスカッションでは、兵庫県精神保健福祉センターの酒井所長をコーディネーターに招いて、神戸の繋がりについて斬新な話を聞くことができました。「ためになるセミナー」ということだけで終わらせない思いもしっかり伝わったようで、アンケートには、今回開催してよかったと思えるようなコメントが多く、これを形にしていくことを示唆するように、セミナー以降、様々な機関の方から、ちょっとした繋がりイベントなどのお誘いの電話などをいただいております。

年末に仲間が亡くなったことをきっかけに、神戸ダルクの梅田の思いが十二分に伝わったこと、「助けてください」という言葉に会場の空気が一瞬一つになったように感じたこと、依存症という問題を解決するのは「地域の理解と思いやり」ということを痛切に理解できたことが私にとっても大きな収穫でした。

今回、初めてセミナーに参加したダルクの仲間も沢山の来場者を目にし、こんなにも多くの人たちが自分たちに関心を抱いてくれていると言うことを知ることができて、今後の回復に対する大きな自信を得られることが出来たと思います。

最後に今回神戸ダルクのプロジェクト不調の際、急遽のお願いにも関わらず、快く機材を貸しだしていただいた、神戸医療福祉専門学校の先生方にも助けられました。

また、今回のセミナーを2年連続で支えていただいた、神戸市社会福祉協議会フェスピック助成様に心より感謝を申し上げます。



## 長崎への旅

チャン

アディクトのチャンです。私は、神戸ダルクに入寮して1年半が過ぎました。新しい仲間が出来て戸惑いながらも何とかクリーンを保っています。現在は神戸ダルクの中では、古くなり先行く仲間として食事係やスタッフのお手伝いなどをさせて頂いています。私には双子の弟がいてその弟も、アディクトで長崎ダルクに繋がっています。しかし惜しくもスリップしてしまい、刑務所に入りました。私は弟に会いたいと思って代表に話をしてみようと思っていた矢先に、代表のほうから「長崎に行く用事があるので、チャンも良ければ弟に面会にいけますか?」と言われて、行きますと答えました。私は、この時ハイパーパワーを感じました。そして長崎に行きました。

長崎ではグラバー園や原爆資料館に行ったり、稲佐山の夜景を見たりしました。長崎は神戸と似て坂道が多く少し歩き疲れましたが、長崎名物の角煮マンや長崎ちゃんぽん、皿うどんを食べて疲れがぶっ飛びました。長崎ダルクの施設長も私が以前、佐世保刑務所の薬物教育でお会いして、弟がお世話になっている事からとても親切にいただきました。長崎ダルクの皆に挨拶すると弟と私がそっくりなのでビックリしていました。1月21日に面会に行き元気な顔を見て安心しました。私は弟にお互いクリーンな毎日を続けて、次はコンベンションで会おうと約束しました。私は、神戸ダルク



の利用期間があと6ヶ月ほどですが、このまま社会生活をしていく自信もないので今の私にできる事は仲間と共にいる事が、自分の為になるので、代表にスタッフになりたいと言いました。これから自分の生き方を変えていく為にも仲間と共に焦らずに頑張っていくと思えます。最後になりますが、今回の長崎の旅は確実に私に心にゆとりをもたらしてくれました。私はこれから小さな幸せを感じて本当の笑顔を取り戻しスタッフとして、仲間サポートをして行こうと思えます。長崎と神戸の施設長、スタッフさん、長崎の旅本当にいい思い出になりました。ありがとうございました。



11/18の妻の誕生日に、神戸栄光教会様より、支援金をいただきました。ミサに家族で参加しました。未だ苦しむ依存症者の支援に使わせていただきます。神に感謝。

## 2018 年度助成金事業 本当にありがとうございました。



この度、公益財団法人 大和証券福祉財団様より助成金を頂き神戸ダルクでも晴れて琉球太鼓エイサープログラムを始めることが出来ました！！行く行くは皆さまの前でも披露していきたいとダルクの仲間も日々練習を重ねています。太鼓や衣装など大切にさせて頂きます。ありがとうございました！！

スタッフ 濱津





この度、平成30年度  
 キリン・地域のちから応援事業助成 公益財団法人キリン福祉財団様によって、神戸ダルク家族会の開催事業を行うことができました。毎月の家族会にてゲスト講師を招き、参加する家族に大きく希望を与えることができました。今後も家族会を継続できるように頑張ります。スタッフ研修 俵



この度、公益財団法人 前川報恩会平成29年度福祉助成によって、夜間寮へのエアコン4台を設置することができました。夏の猛暑を快適に乗り切り、冬の寒さを感じさせない生活基盤が確保され、依存症からの回復に専念することができています。心より感謝を申し上げます。

代表理事 梅田



## カリタスジャパン援助助成 薬物依存症者の居場所づくりのための寮の設置事業

この度、カリタスジャパン様より、開設したばかりの一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジに対する支援にて、地域の薬物依存症者の居場所を確保するために「グループホーム設置のための助成金」を200万円いただきました。ですが、神戸という地域柄の問題も含めて、グループホームとして設置することを一年以上かけて、計画してきましたが設置することが非常に困難でした。その理由として

- ・ 薬物依存症の理解がまだまだ少ないことからの近隣地域の問題で断られた。
- ・ 神戸という土地が、震災があったことから、建築図面などが無い物件ばかり
- ・ 障害福祉サービスが5LDK以上で100平米以下の物件を指定し適合したものが見つからなかった。

などで、助成金を返還したほうがいいのかということを考えてきましたが、カリタスジャパンさんのご好意にて「居場所づくりということで、グループホームではない寮のようなものでも構わない」という言葉をいただき、神戸市灘区六甲台町に8名で住める物件を設置することができました。8人で住むために、大きな部屋に壁を取り付けて2つにしたりなど、みんなの日曜大工も含めて、神戸市の生活保護や、法務省の自立準備ホームの規定にもあった間取りにすることができました。2018年8月よりダルクのスタッフを含めて、車両を運転できる仲間が同伴し住めるようにし、寮としての共同生活が始まりました。

2019年のお正月三が日は、神戸ダルク利用者全員で、「普通の家庭のお正月を経験しよう」ということで、私たちスタッフも含めておせちや、お雑煮を食べながら過ごすことができました。薬物依存症者にとって、普通のお正月は、特別なもので、一人ぼっちで過ごしたか、刑務所や病院の中で過ごした経験ばかりで、涙して喜んで利用者がいました。仲間がそばにいて安心できるお正月を、この寮で過ごすことができたことも、カリタスジャパン様のサポートなしにはできませんでした。そのことをスタッフ一同、利用者一同、心より感謝するとともに、回復支援および、自身の回復について邁進することを約束していけると思います。まだまだ課題は尽きませんが、支えていただける方々の思いを胸に前に進みたいと思います。

また、この助成事業がきっかけで、シナピスさま、松永神父さまなどの繋がりもでき、今後も精力的に薬物依存症者のためにつながっていきたいと思っています。心より感謝しております。神に感謝。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規



## 活動報告

2019 年 1 月(15 日より)  
 震災の集いボランティア参加  
 依存症セミナー in 神戸 2019 開催  
 長崎ダルク訪問  
 加古川学園勉強会講演  
 豊岡市立但東中学校講演  
 浄土真宗本願寺派大阪管区教諭師研修会講演  
 市民活動センターNPO 新年会参加

2 月

アディクションフォーラム in ひょうご参加  
 高松刑務所薬物離脱教育参加  
 松山刑務所薬物離脱教育参加  
 加東市立福田小学校講演  
 三田市民フォーラム講演  
 沖縄タコス料理店視察  
 沖縄ダルクフォーラム参加  
 薬物依存症回復施設職員研修参加

アゲインファーム ボランティア 月2回  
 垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日  
 垂水病院スマーブ 毎週金曜日  
 神戸保護観察所スマーブ講師 毎月2回  
 神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日  
 明石保健所家族相談 毎月1回  
 アディクショフォーラム実行委員会 毎月1回



## 近況報告・活動予定

バタバタとしながらも、新しい仲間や戻ってきた仲間、ダルクスタッフとして神戸ダルクを支えてくれる仲間が増え、畑のプログラム、エンカウンターグループ、就労継続支援事業所の準備として新しい物件の契約が着々と進んでおります。スタッフや研修スタッフに支えられながら、神戸ダルクのプログラムの充実を再確認し、「幸せになるために生き方を変えるプログラム」を構築していく一年になりそうです。次年度は神戸ダルクフォーラムを行うことが決定しました。スタッフ一同、準備と共に暖かい居場所作りに専念します。

### 神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

### 支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。**個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。**刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ  
 TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741  
 e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談  
 相談の内容に関するの秘密は厳守します

### 逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00  
 メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

### 神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

#### ご献金

和歌山断酒道場 寺前隆様 木村正英様 三光塾様 木村様蓬莱様 高井省三様 安宅正彦様 北村央恵様  
新潟県薬物依存症者を抱える家族の会 小西憲様 大野千春様 井手照光様 垂水病院 麻生克郎様

#### ご献品

木村様蓬莱様 西村清美様 中田智恵海様 尾崎ひとみ様 谷家優子様

(平成30年12月27日～平成31年2月14日到着分・順不同 ※購読料の方を含む)

### 献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

薬物依存症者への初期の支援は、様々な問題や面会、面談、訪問、手続き、会議などで追われてしまいます。が、そのような支援、さらに刑務所入所者、逮捕者への支援は、すべてボランティアにて行われています。しかし、そのような支援が本当は一番大切であり、依存症者の回復のチャンスを絶やさないようにしたいと考えていますので、何卒ご支援のほどよろしくお願ひします。

また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹼、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブなどもございましたら是非譲ってください。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

#### 編集後記

薬物依存症から解放されても、私たちの人生に困難や不幸な出来事は普通に起こってきます。依存症という生き方は巧妙で、糖尿病などのように数値でわかるものではありません。私たちは回復の中で、愛、寛容さ、謙虚さ、感謝、赦しを見つけていきます。私たちは知っています。私たちの回復は奇跡なのです。その奇跡を手にした人は普通に生きている人よりも優しい自分と出会っていきます。私たちは、その協力をする仲間であることに誇りを持っています。共に歩きましょう。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.11  
編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規  
印刷 プリントバック  
〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F  
TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741  
e-mail kobe.darc@gmail.com  
www.kobedarc.org  
価格 1部 100円 年会費 2000円  
(購読料は年会費に入ります)  
発行人 関西障害者定期刊行物協会  
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階